

同窓会会報
第63号
平成9年12月15日
発行所 茨城県茨城郡内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL.029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所 南 双葉印刷

第二十三回同窓会大会を終えて、 会員各位へのお願い

同窓会会長 福丸 博房

寒中お見舞い申し上げます。
会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃、同窓会本部に対して、ご協力ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。
引き続き会長をやることになりましたのでよろしく願います。

私たちがとりまく社会に目を向けますと毎日、大手の銀行や証券会社等金融機関の倒産、不祥事件の連続で暗いニュースが続いています。

一方私たち国民に影響する行政改革、財政構造改革は、はたして期待できる答えを出してくれるのでしょうか？私たちに関係の深い農林水産省は現行体制のままのようです。何はともあれ早く明るい改革がまたれます。

さて、私たち執行部は前回の大会で決定された事業計画に基づき二年間実行してきました。その成果を第二十三回の同窓会大会（平成九年十一月三日開催）で審議していただきました。

大会は来賓として農民教育協会の木村事務局長、鯉淵学園の六戸学園長からご挨拶をいただきました。学園長からは現在の学園の現状等についてお話をいただきました。

今大会は残念ながら会員の出席があまりかんばしくありませんでしたが遠くは熊本、兵庫県支部からと近県及び地元茨城県の会員の参加を得、熱心な審議により本部提案の平成八・九年度事業報告書の承認と平成十・十一年度の事業計画を決定していただきました。次回には多くの会員の出席をお願いします。

新年度の主な事業としては、同窓会の組織強化対策、学園支援活動、分収造林事業等であります。

まず組織強化対策について
同窓会の登録会員は六千人を超えているのですが、会費の納入者は残念ながら約一千八百人で僅か三〇・〇％程度となっている状況です。このような現状をふまえ、会報はもとより、支部の集まり等機

会をとらえ、会費納入のお願いをしていくところで。

会費を納めていない会員にも会報を送り学園の状況、同窓会の動き等情報を知らせているのです。未納の方はこの機会にぜひ会費を納入して下さいよう強くお願いするしだいで。

そのことにより、財政の確立をさらに強化することができ、支部の組織強化や懸案事項であります全国支部長会議等の開催も実現できるものと思います。

つぎに学園支援活動について
学園あつての同窓会です。学園はご承知のとおり、全国唯一の農業・生活専門学校です。学生は科学的知識や専門的な農業技術を学んでいます。

これから日本の一八才人口の推移をみますと進学対象者は減少傾向にあり、大卒の時代といわれています。このようなことから、あなたの後輩等に鯉淵で学ぶことを進めて下さい。同窓会も学生募集、就職活動等学園との共栄理念をもって支援する所存であり、会員のご協力をお願いします。

分収造林事業について

このことについては、機会あるごとにお知らせしていますが同窓会の四〇周年記念事業として、茨城県高萩市内の国有林内に林野庁と分収造林契約を結び山林を所有し、すでに植栽後一〇数年が経ちその時々の手入れにより順調に育っています。これをさらに所期の目的にそって今年度も管理することを決定しましたのご理解とご協力をお願いします。

大会では、貴重な多くの意見をいただきました。とくに若い二〇期生以降の会員の同窓会に対する協力を要請する必要があることが議論されました。

今大会の役員改選にあたり、すでに会員には一期生から五一期生もあり、私としては同窓会の活性化のためにも九期生の一桁の会長でなく若い世代の者に交代すべきだと考え関係支部をはじめ関係者とも相談しましたが実現することができませんでした。次期には世代交代ができるよう執行部も努力しますが会員の皆さんのご協力をお願いします。

このような状況から現行の執行体制で運営して行くことになりました。
末尾になりましたが、大会に先立ち、私たちが学生の時、現在の学生も、そして同窓会等の集まりで歌う、愛着のある校歌ともいえる「鯉淵学園の寮歌」を作詞された千葉市在住の二期生の黒川善吉さんに感謝状と金一封をお贈りしました。これは、前回の五〇周年大会で行えば良かったのですが、今大会で実施させていただきます。

また、次期参議院選に出場されます元農林水産省農産(畜)園芸局長であった日出英輔さんを同窓会としても支援することにしておりますのでよろしく願います。
以上大会の主な決定事項等同窓会に対する協力要請等を申し上げ、会員各位のご健勝ご祈念申し上げます。

新年もお互いに健康で良き年であることを願うものです。

第二十三回同窓会大会報告

平成十・十一度役員刷新見送り 福丸会長ほか若手育成を目指して続投

分収林造林経営継続・保全

第二十二回同窓会大会は、学園創立五十周年記念募金活動の終結、分収林造林経営継続問題、会員名簿【第十二版】の成果及び、役員若返りによる若年会員の積極的活動参加、向上を主題として、十一月三日、学園に於いて開催され、執行部から提出された全議案について提案通りに可決、平成十・十一年度事業活動を発進させた。

だが、当日の会員の出席は最悪で、好天に恵まれて賑わう第五十二回学園祭の盛り上がりとは対照的に、定刻の十三時三十分出席者二十七名の低調振り、会場を三番大教室から六番の中教室に急遽変更、寂しい開会となった。冒頭、半世紀にわたり歌い継がれて新生の日を呼び続ける学園寮歌の功績を評価し、その作詞者である千葉支部二期生・黒川善吉様に対して会長から感謝の表彰が行われ、記念品が贈られた。都合欠席の本人に代わり、千葉県同期の井上義明様を受賞、伝達した。

大会は、会長挨拶に続いて農林教育協合理事長代理・木村春夫様並びに学園長・穴戸弘明先生からそれぞれ、同窓会活動の取り組みに対する高い評価と期待の祝辞を賜り、本題に進行した。

大会人事

次の方々を選任、任命する。以下、敬称略。

議長	梅崎孝臣	茨城県支部	十三期生
議事録署名人	坪野敬美	学園	七期生
書記	志賀陸男	茨城県支部	十一期生
	稲川正夫	茨城県支部	十三期生

報告事項

平成八・九年度事業並びに同決算については、第二十二回大会決定の計画並びに予算に準拠した実績で報告され、経理手法簡明化等意見付き監査報告を受けて質疑応答に入ったものの、出席者極小大

会を招いた事務局怠慢に関連した叱責意見が続出、役員の出欠審査にまで及び兼ねない様相に、執行部は返す言葉もないほどの低速振りを露呈した。

平成八・九年度事業報告内容は、執行の度に会報をもって報告した実績を集約したものであり、同決算状況は、別掲

「平成八・九年度決算書」の通りである。

審査事項

平成八・九年度事業並びに決算及び監査報告については、提案通りに承認される。

平成十・十一年度事業計画では、従来活動の強化、継続の方針と健全財政の確立を目指した三度目の挑戦を決定してその達成を確認した。同時に承認された予算は、別掲「平成十・十一年度予算書」の通りである。

また、新たに、都道府県の地域を単位とした情報収集活動を発起し、これを集約、学園に提供して卒業生の進路、就職の指導等有効利用への道を開拓する必要があることから、この方面に関する英知を結集、具体化を目指して取り組む方針も承認された。

役員選出

常任委員（新任）
大原 俊雄 東京都支部 十九期
監事（新任）
白戸 忠男 東京都支部 九期

平成十・十一年度役員選出に当たっては、出席者少数のことから大会を推薦委員会に切り換えて全員で協議した結果、平成九年九月六日の役員会合意に基づき「若手起用を第一とした同窓会活動の活性化推進方針」に従った人材発掘は、次回に見送り会長ほか留任、空席の監事に常任委員の白戸忠男を、その後任として大原俊雄が推薦されて大会に報告され承

認された。

付帯決議として、支部長推薦の常任委員については、推薦の都度、役員会において追認することとする。

また、学園在職の常任委員は、委員活動の適性を考慮して追認することとし、現在、就任している委員についても順用する。

新役員挨拶は、別掲「会長挨拶」をもって省略する。

大会閉会 十五時五十五分。

懇親会

大会終了後、休憩を挟んで懇親会場の五番教室に移動、新たに学園教職員及び学生自治会役員を迎えて百人を越す盛り上がりの中に、学園運営にご尽力をいたした元農水省農産園芸局長・日出英輔様からのメッセージを賜り、遠来の五期生・加藤信二兵衛支部長の乾杯で十六時五分開宴する。

立食パーティーの和やかな新旧交流のうち、青春の思い出が交錯して時の流れが早く感じられた。

残念なことに、都合で十七時過ぎの列車で帰途につく二四期生・吉丸民雄熊本県支部事務局員を全員で激励、拍手で見送る。

今回のパーティーは、準会員の学生の応援が増すことに賑やかとなり、特に、女子学生の勢いが優って交流に花を添え、瞬く間に終宴の時刻です。

十八時二十分、後処理を学生に託して流れ解散で閉会する。

学園創立五十周年 記念募金最終報告

平成八年八月三十一日をもって終結した記念募金活動は、平成九年一月七日発行の会報第60号で表明した「募金活動最終宣言」によって決着したところであるが、今度の大会にその応募実績が別掲「寄付応募者数及び金額集計表」の通りに報告、承認されましたのでお知らせし、最終報告といたします。

改めて、本活動によせられた各位のご理解ご協力に感謝し、本会独自の「寄付応募者名簿」を手作り作成して保存し、同窓会勲功として後世まで記念する方針であることをお知らせします。

なお、次の会員からの応募は、記念式典当日のご寄付等で報告洩れ分です。名簿に追加登録し、お詫び申し上げます。

- ◆一口 一万円 (三名)
 - (岩手県) ② 加藤 勝 信
 - (茨城県) ④ 窪 木 勝 広
 - (大阪府) ⑦ 安ヶ平 利 秋
- (累計三口)

分収林造林対策

平成八年十一月三十日開催の役員会で確認された「分収林造林経営継続・保全」方針をうけて、八月三日から六日までの四日間、延二十五人役を投入して山全体の下草刈りと、必要部分の間伐作業を行い林木の生育環境を改善した。

今後は、部分的下草刈りと春秋二回の



入学試験制度について

教務部長 安藤 義道

一、学園の近況

今年も受験シーズンが到来いたしました。七年度をピークに高校三年生の数は減少の一途をたどると予想され、各大学や専門学校は生き残りをかけて学生確保に躍起になっています。

きびしい前途は学園として例外ではなく、私共教職員も何とか定員を充足すべく高

見回り程度で四、五年観察後、本格的間伐、枝打ち作業の時期を迎える。

写真は、下草刈り作業に汗だくの林業専門員、茨城県二期生・益子駿一氏(八月四日、事務局長撮影)。

分収林管理では、同氏に献身的ご協力ご指導を頂戴しており、紙面を借りて深く謝意を表します。

校訪問や、編入生確保のために各県の農業大学校にも訪問して学生確保に努めています。その結果、幸いこれまでは順調な応募に恵まれて、九月末日現在の在学生数は一年生が一二名、二年生が一二名、三年生が九五名となっています。

また、十一月の十年度推薦入学試験には農業経営科学科に三四名、生活栄養科学科に一九名の応募があり、それぞれ三

名と一八名の合格を発表しております。しかし、九年度の応募状況農業経営科学科四名、生活栄養科学科一七名、八年度の同七三名と二五名と比べるとかなり下回り、前途は楽観できない状況にあります。

幸い、十月に行った編入学試験には一三名の応募があつて、一一名の合格を発表しておりますが、こちらの方は九年度の九名(合格は八名)を上回りました。

出身学校は岡山、山口、鹿児島それぞれの農業大学校二年生です。

この先まだ、年明けの一月二十四日(前期)、二月二十一日(中期)、三月二十四日(後期)にもそれぞれ一般入学試験を実施する予定です。

二、入学試験制度について

十年度募集から、一般入学においては農業経営科学科で提出書類、面接、小論文についての総合評価、生活栄養科学科においては提出書類、面接、小テスト

(生物または化学) についての総合評価で入学判定をすることになりました。そのうち面接と小論文、小テストを学園において実施することから、一般的意味での入学試験実施をすることになりました。

しかし、論文もテストも常識的かつ基礎的内容のものであります。もともとの意図が、近年の傾向としてけっこう事前下見に高く高校生が多く、茨城県外の場合には高校生に保護者もつきそってこられることも多いことから、いっそのこと日を決めて面接をして、本人の希望を確かめようということからでした。一部には、この入学試験導入で鯉淵学園の入学がむづかしくなってきたと思われているようですが、従来の方針と基本的には何等変わりません。

すなわち、学則にもあるように「農業及び農村生活の進歩改善に寄与する人材を養成する」のが大きな教育目標です。そして入学後は、自治会会則にもうたわれているように、寮生活を通じての「自治精神を基調として人格の陶冶を図り、切磋琢磨し、学生生活の向上を図る」学生に育てていくのが目的です。

三、優先入学制度について

このような教育方針や自治会活動に深い理解をもって下さっているのが卒業生各位であると思えます。今回の推薦入学でも卒業生の方々が何らかの形で推薦下さった学生が十人近くありましたが、私共は卒業生の推薦を歓迎するとともに、

大変に期待もかけています。

入学選考に際して求めている提出書類にも、卒業生の推薦状が入っている場合には特別な考慮をはかっております。時に期待に沿えないこともないわけではありませんが、最大限尊重する姿勢は常に変わっておりません。

ターネット何でもけっこうです。前記の通りなかなか学生確保は今後益々困難度を増してまいります。一層のご協力をお願い申し上げます。

TEL 〇二九一二五九一二八一
FAX 〇二九一二五九一六九五
インターネット <http://www.sphere.ad.jp/koibuchi/>

支部・同期の動向

若手起用を第一とした同窓会活動の活性化推進を目指す支部の動きは、第二十三大会が近づくにつれて活発化し、先ず、東京都支部が役員を一新したの続いて神奈川県支部では、副支部長並びに幹事長及び幹事を新設して若手会員を配置、今後の活躍が期待される。

また、地元茨城県支部でも、十月二十四日(金)役員会を開催して明年春頃を目前に総会を開き、役員刷新の方針を固めた。

同期会では、十四回三期会が岡山に集い、夫人同伴で旧交を温めたほか、長野オリンピックにあやかる集いが八期、九期、二期等の各期で計画或いは実行された様子である。

会議概要として、◆開催年月日 ◆会場又は開催地 ◆代表者 ◆出席者又は人数 ◆主なる会議内容の順に記載する。○数字は卒期、括弧は通信課程卒期。

東京都支部総会

◆平成九年十月四日(土) 十六時

◆東京都新宿区市谷船河原町十一

飯田橋レインボービル一階

レストラン「耕」

◆会議内容 支部規約制定、役員選任、支部運営協議及び懇親会

◆新役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

顧問 小口芳昭②

和 田 文 雄③

佐 藤 三 郎③

支 部 長 住 吉 達 男①⑦

副支部長 大 原 俊 雄①⑨

事務局長 富 岡 忠 明④④

◆支部長 白 土 忠 男⑨

◆出席者 二十九名(記念写真紹介)

森 安 一 夫② 撮影欠席

◆記念写真



神奈川県支部総会

◆平成九年十月十八日(土) 十三時

◆横浜駅西口ダイヤモンド通り

ホテル・リッチ「桂川」

◆支部長 北 村 康 祐②

◆出席者 十九名(記念写真紹介)

◆会議内容 役員選任、支部運営協議、懇親会。

◆新役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

顧問 山 口 次 夫①

(初代支部長)

支 部 長 北 村 康 祐②(再任)

副支部長 鈴 木 昭 司①①

幹 事 長 志 村 隆③

幹 事 岩 本 恵 子②⑤

矢 作 幸 子③⑥

笹 島 竜 生④⑦

伊 坪 裕 子⑤⑧

露 木 敏 雄⑤

◆招待客員

学 園 長 宍 戸 弘 明 先生

◆神奈川支部総会は、数年振りの開催

である。

十月十八日十三時、横浜駅西口ダイヤ

モンド通りに聳えるホテルリッチの六階

にしつらえられた京風庭園が静かに広がる

「桂川」。折しも茶室あたりから流れる

雅びやかな琴の音の六段の調べのうちに、

学園長・宍戸弘明先生のご来賓をう

けて同窓生十九名が勢揃いした。

農水省構造統計課勤務の四七期生・笹

島竜生の司会のもと、北村康祐支部長は

【写真説明】

前列左から

山之内忠男⑨、工藤 忠⑩、藤田一郎②⑤

中田紀博④⑥、長尾 元④⑧ 岩持文彦⑦

中列(座席)左から

満永忠昭④、小口芳昭②、宮島三男先生

白土忠男⑨、佐藤三郎③、住吉達男①⑦

後列(立席)左から

宮地 勉①、山崎 修⑨、近藤健朔①⑨

大原俊雄①⑨、北村康祐②、富岡忠明④④

大竹秀夫④④、川島 修④④、新田省三④④

石田善吾①⑥、金子 晋④④、宮本良隆⑤⑤

磯田 保④④、箱山 豊①⑤、土方貞信①⑥

中西昭司⑨

幹 事 各期から選出

◆派遣員(同窓会本部)

事務局長 岩 持 文 彦⑦

「ふくろしおいの心(学園の前身「養成所」草創期の精神)で仕事をこなし、日常のストレス解消を」と前置きし、先ずは、今は亡き葉丸文明前支部長⑧のご冥福を祈る。

会務報告ではさきの学園創立五十周年記念募金において神奈川県支部があげた全国一位の達成率二二九%の

実績を評価強調して謝礼に代え、今後の支部運営等同窓会活動への積極的参画を要請して結びとした。

穴戸先生からは、活発に躍動する母校鯉淵学園の現況報告に続いて、母校愛を全面に学園支援に取り組む同窓会活動に対する高い評価とお礼をいただき、更に今後大きな期待が寄せられ会場の盛り上がりには拍手がかかる。

議事等においては、特に、役員改選の同窓会本部方針である若返りによる活動活性化推進に呼応して協議した結果、新役員紹介の構成で全会一致の承認となり初仕事として、我が同窓会としても赤絨毯への道をつけたいと申し合わせ、早速



【写真説明】

前列左から
北村康祐②、穴戸学園長、中村 健④、岩本恵子⑥
山岸征也⑬、鈴木昭司⑪
後列左から
森田日出男③、川島佳一③、山口次夫①、芹沢孝之③
五明達夫③、佐藤文雄⑦、汐満一虎⑭、横館睦子⑫
中野政男②、大場茂男⑤、笹島竜生④、伊坪裕子⑩
鈴木昭司⑪

具体的活動に入ることにした。
自己紹介の後、和やかな懇談に移行、寮歌を斉唱し、来年秋の再会を期して盛會裡に散会した。

(支部長 北村康祐記)

兵庫県支部総会

- ◆平成九年十一月八日(土)～九日
- ◆加古川市上荘町井ノ口五二〇
- ◆加古川温泉「みとろ荘」(国民宿舎)
- ☎〇七九四一二八二〇〇四
- ◆支部長 加藤 信 二⑤
- ◆派遣員 高橋 隆 三⑨(副会長)

岐阜県支部総会

- ◆平成九年十一月二十九日(土)～三十日
- ◆恵那市大井町二七二〇一三二三
- ◆民宿「藤太郎」
- ☎〇五七三一二五〇四八
- ◆支部長 齊藤 茂 作⑦
- ◆派遣員 砂田 義雄⑤(監事)

岩手県支部総会

- ◆平成九年十一月二十九日(土)～三十日
- ◆岩手郡雫石町鶯宿六一九五一三
- ◆ホテル「鶯庄館」
- ☎〇一九一六九五一二三三六
- ◆支部長 高橋 利清⑨
- ◆派遣員 岩持 文彦⑦(事務局長)



第十四回三期会報告

総勢四五名「岡山」に集うノ

平成九年九月二十六日(金)〜二十七日
岡山市古京町一丁目七―三六

「おかやま三光荘」

鯉淵三期会は、昭和五十五年十月十一日、鯉淵学園同窓会館において第一回が開催され、昭和六十一年九月十九日笠岡市での第三回集会以降毎年開催となり、全国各地域持ち回りの幹事会で運営されている。来年の十五回は、和歌山県下での開催が予定された。

今回の十四回は、中国地区三期会が幹事となり、岡山県職員会館「おかやま三光荘」を拠点として、徳島県在住の元教授・安達義正先生ご夫妻並びに広島県在住同三好久人先生を来賓としてお迎えし、全国二十三都道府県から三七名の会員と夫人同伴者五名を交えて総勢四五名の盛り上がりで、その盛況振りは記念写真をもつてご想像ください。

行事では、二十六日午後五時集合し写真撮影、総会、懇親会と続き、鯉淵時代の思い出や現在の幸せを肴に花咲く交流で岡山の一夜を満喫した。

翌二十七日は市内観光。午前八時三十分、ホテル前を観光バスで出発し後楽園、瀬戸大橋、大原美術館を見学した。参加者三名。十五時JR岡山駅で解散する。

(幹事代表 大山浪雄記)



【写真説明】

前列右から

坂田夫人・坂田秀雄【福岡】、渡辺夫人・渡辺悦次郎【愛知】、川島夫人・川島佳一【神奈川】
安達夫人・安達義正先生、三好久人先生、田畑夫人・田畑啓一【山形】、国分夫人・国分喜治郎【岩手】

二列右から

奥野 嶽【三重】、小川末吉【愛知】、宮島美智雄【愛知】、加藤昭三郎【静岡】、村上五月【福井】
奥田 平二【神奈川】、杉沢 泉【東京】、佐藤三郎【東京】、川原富夫【千葉】、遠山 操【茨城】
佐藤節夫【岩手】、大島健一【北海道】

三列右から

鎌倉 功【広島】、横山卓爾【岡山】、河島宏輔【岡山】、大山浪雄【岡山】、右手善人【岡山】
倉澤 功【和歌山】、杉山嘉市【奈良】、堀端俊造【兵庫】、渡辺友義【大阪】、野村昭吉【大阪】
上来敏夫【大阪】、渥美照男【三重】、武岡 勇【三重】

後列右から

鹿江琢史【熊本】、江頭茂喜【佐賀】、広見 洸【高知】、山崎佳貞【徳島】、内海一潔【山口】
山本 英治【山口】、佐伯得三【広島】

学園創立50周年
記念事業 寄付応募者数及び金額集計表

平成8年8月31日(最終)

支 部 名	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 金額比 (%)	支 部 名	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 金額比 (%)
		人 数	金額(円)				人 数	金額(円)	
北海道	253	63	1,335,000	52.77	京都府	82	46	865,000	105.49
青森県	48	19	320,000	66.67	大阪府	45	20	420,000	93.33
岩手県	156	68	1,160,500	74.39	兵庫県	113	46	868,000	76.81
宮城県	80	26	410,000	51.25	奈良県	12	12	200,000	166.67
秋田県	84	32	470,000	55.95	和歌山県	31	18	220,000	70.97
山形県	186	30	295,000	21.24	小 計	372	166	3,183,000	85.56
福島県	197	49	785,000	39.85	鳥取県	57	15	250,000	43.86
小 計	1,004	287	4,875,500	48.56	島根県	147	32	580,000	40.14
茨城県	718	247	5,514,340	76.80	岡山県	66	17	205,000	31.06
栃木県	182	78	1,350,000	74.18	広島県	84	26	465,000	55.36
群馬県	101	43	970,000	96.04	山口県	73	32	617,000	84.52
埼玉県	133	61	1,148,020	86.32	小 計	427	122	2,127,000	49.81
千葉県	148	48	970,000	65.54	徳島県	23	7	250,000	108.70
東京都	96	41	1,010,000	105.21	香川県	29	18	260,000	89.66
神奈川県	76	33	1,740,000	228.95	愛媛県	43	26	495,000	115.12
小 計	1,454	551	12,702,360	87.36	高知県	39	9	147,000	37.69
新潟県	237	69	988,000	41.69	小 計	134	60	1,152,000	85.97
富山県	85	22	670,000	78.82	福岡県	47	12	210,000	44.68
石川県	47	19	280,000	59.57	佐賀県	65	23	500,000	76.92
福井県	161	26	495,000	30.75	長崎県	41	10	87,000	21.22
小 計	530	136	2,433,000	45.91	熊本県	78	31	540,000	69.23
山梨県	27	9	260,000	96.30	大分県	31	11	310,000	100.00
長野県	261	75	1,169,340	44.80	宮崎県	104	23	302,000	29.04
岐阜県	46	26	450,000	97.83	鹿児島県	91	37	600,000	65.93
静岡県	80	29	465,000	58.13	沖縄県	123	40	672,000	54.63
愛知県	85	22	400,000	47.06	小 計	580	187	3,221,000	56.53
小 計	499	161	2,744,340	55.00	海 外		1	100,000	
三重県	37	14	380,000	102.70	其 他		3	185,000	件数除
滋賀県	52	10	230,000	44.23	合 計	5,000	1,671	32,723,200	65.45

同 卒 業 期 別 内 訳

目標金額は、会員数に対する按分調整額である。
前表も同じ。卒期括弧数字は、通信過程。

平成8年8月31日（最終）

卒 期	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 金額比 (%)	卒 期	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 金額比 (%)
		人 数	金額(円)				人 数	金額(円)	
1	60	31	610,000	101.67	31	84	21	330,000	39.29
2	100	59	1,265,000	126.50	32	103	12	245,000	23.79
3	103	68	2,410,000	233.98	33	118	20	249,340	21.13
4	94	70	1,820,000	193.62	34	111	16	180,000	16.22
5	67	53	1,583,000	236.27	35	110	15	180,000	16.36
6	31	25	680,000	219.35	36	111	10	120,000	10.81
7	76	57	1,480,000	194.74	37	86	8	100,000	11.63
8	81	43	910,000	112.35	38	79	14	132,000	16.71
9	105	64	2,235,000	212.86	39	76	6	60,000	7.89
10	97	62	1,250,000	128.87	40	63	6	70,000	11.11
小 計	814	532	14,243,000	174.98	小 計	941	128	1,666,340	17.71
11	72	56	1,465,000	203.47	41	64	5	80,000	12.50
12	54	34	730,000	135.19	42	64	6	72,000	11.25
13	83	46	951,840	114.68	43	92	21	273,680	29.75
14	84	40	805,000	95.83	44	88	15	160,000	18.18
15	82	44	755,000	92.07	45	61	10	100,000	16.39
16	65	32	645,000	99.23	46	71	19	230,000	32.39
17	60	31	670,000	111.67	47	59	11	115,000	19.49
18	51	20	450,000	88.24	48	(71)	10	145,000	20.42
19	86	40	860,000	100.00	49	(36)	4	69,340	19.26
20	81	39	705,000	87.04	小 計	499	101	1,245,020	24.95
小 計	718	382	8,036,840	111.93	(1)	169	29	350,000	20.71
21	81	29	490,000	60.49	(2)	207	33	368,000	17.78
22	120	40	582,000	48.50	(3)	253	33	397,000	15.69
23	147	59	1,180,000	80.27	(4)	180	30	345,000	19.17
24	137	68	915,000	66.79	(5)	106	12	115,000	10.85
25	151	63	870,000	57.62	小 計	915	137	1,575,000	17.21
26	127	35	480,000	37.80	賛助会員	12	6	70,000	58.33
27	102	35	590,000	57.84	合 計	5,000	1,671	32,723,200	65.45
28	80	16	160,000	20.00					
29	75	17	350,000	46.67					
30	81	23	270,000	33.33					
小 計	1,101	385	5,887,000	53.47					

二四期生卒園三十周年記念 全国大会を開催して

去る十一月一日、二日の両日松本浅間温泉にて長野県人会が実行委員となり開催しましたのでご報告致します。我々二四期生全国大会も今回が四回目となりました。(その間皆勤者七名)

今回は、恩師宮島三男先生をお迎えし、全国各地から同級生五五名が参加されました。前回開催の東北大会時に、今回は是非オリンピック景気に沸く長野での強い要望により幹事を引き受け、県人同級生一丸となり準備を整え本番を迎えました。当日は初参加の仲間もあり、ネームプレートをつけなければ思い出せない位変貌した者もいて三十年の月日が顔ににじみ出ているようで非常になつかしく心打たれる思いで胸が一杯になりました。(お孫さんもいる方が大勢いるようです)

大会では、経過報告/次回開催場所選定/宴会/察歌斉唱と続き二次会は全員参加で場所を移し仲間同士車座になり三十年前のタイムカプセルを開き、夜遅くまで語り合いました。二日目は安曇野観光を行い、北アルプスに降った初雪の稜線に感激し信州新ソバを堪能され長野の良さを肌で実感していただけた事と思います。時間があれば長野オリンピックの会場を案内する予定でしたが、限られたスケジュールのためせっかく来長して頂いたのに残念に思っております。

次回開催につきましては、大会にて満場一致により九州県人会が実行委員となり五年後に開催して頂く事になりました。九州の同期の皆様さん宜しくお願い致します。今度会う時は二十一世紀となり超スピード時代に突入し総てが変化している事と思いますが、同級生の絆を深めるためこの大会が未長く開催され多くの仲間が結集する事を熱望し、それぞれの思い出を胸に解散となりました。最後に今回の大会にあたり実行委員一同誠意を以て幹事を努めさせて頂きましたが、不足の部分があり失礼を申し上げます。ありがとうございました。仲間内という事でお許し願いたいと思います。ご協力ありがとうございました。

平成九年十一月七日

四期生全国大会
実行委員代表

藤原 文夫



鯉淵学園 24期生全国大会 平成9年11月1日 於浅間温泉ホテル小柳

前列左から

竹原(岩手)、林原(鳥取)、太田(茨城)、武田(奈良)、中川(茨城)、小塚(埼玉)、宮島先生、藤原(長野)、吉丸(熊本)、岡井(京都)、矢島(長野)、土屋(群馬)、三井(長野)

二列左から

西浦(兵庫)、兼村(茨城)、割貝(茨城)、生天目(茨城)、飯沢(山形)、土岐(岐阜)、岡野(愛媛)、由井(長野)、河西(長野)、沢田(栃木)、堂坂(奈良)、田代(静岡)、柳本(福井)

三列左から

片口(富山)、五味渕(栃木)、勝部(島根)、田村(島根)、清川(埼玉)、田部井(群馬)、宮崎(岐阜)、馬場(新潟)、松井(群馬)、松島(長野)、今北(兵庫)、原口(愛知)、安実(福井)、河西(長野)、市川(長野)

後列左から

松本(茨城)、沢田(栃木)、平田(岡山)、益子(栃木)、竹原(岩手)、平塚(茨城)、神尾(埼玉)、大高(秋田)、斉藤(千葉)、佐藤(宮城)、藤沢(香川)、小池(岐阜)、堂坂(奈良)、村田(長野)、豊田(長野)